

塩づくり体験でも周知活動や熱中症対策を行っています。(2019年度)

塩と暮らしを結ぶ運動では、愛知県西尾市の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩の里」において、昨年度に引き続き、運動の周知と、熱中症対策を実施しています。

愛知県西尾市は、塩と暮らしを結ぶ運動の協力団体です。復元塩田のある塩田体験館では、今年も、夏休み期間の水・日曜（お盆の時期を除く）に、「夏休み塩田体験」が行われました。

今年の「夏休み塩田体験」（全10回、各回定員40名）は、全ての回がほぼ満員という人気振りでした。その第1回目は、7月21日（日）に行われました。

当日は、曇り空でしたが、温度、湿度ともに高く、熱中症に注意が必要な天候でした。そんな中で実際の塩田作業を体験していただいた皆さんには、熱中症にならないよう、適宜の休憩、水分補給をしていただくとともに、塩と暮らしを結ぶ運動の塩飴も活用いただきました。

暑い中、塩田作業を体験した皆さんは、昔の人たちの技術に関心するとともに、塩づくりの大変さを実感しておられました。受付では、塩と暮らしを結ぶ運動の冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』もお配りし、昔は大変な思いをしてつくられていた塩が、現在でも私たちの暮らしと深く関わっていることをお伝えしました。



塩づくり体験でも周知活動を行っています。(2018年度)

塩と暮らしを結ぶ運動推進協議会の協力団体である愛知県西尾市の「西尾市塩田体験館 吉良饗庭塩（あいばじお）の里」は、江戸時代から三河湾の製塩業の中心であった吉良地域にあり、復元塩田で、昔ながらの塩づくりを体験することができる施設です。

塩づくり体験のメニューには、塩田でかん水（濃い塩水）をつくり、これを煮つめて塩の結晶をつくるまでの一連の行程を行う「塩田体験」と、濃い塩水を煮つめるところだけを行う「塩焼き体験」の2種類があります。このうち、より作業が大変な「塩田体験」は事前申込み制で、5・6月と9・10月に月例で開催されるほか、7・8月には、日曜と水曜日（お盆を除く）に、「夏休み塩田体験」として開催されています。

今年の「夏休み塩田体験」は、7月22日（日）から8月26日（日）まで全9回が実施されますが、申込受付を開始してすぐに、全ての回の定員（40名）が予約で埋まるほどの人気です。

「塩田体験」では、塩田に砂を撒き、海水を撒いて乾燥させ、塩分が付いた砂を集めて、海水をかけてかん水を採ります。昔の塩づくりの仕組みや、それがいかに大変なものだったのかが分かります。

参加者の皆さんには、塩と暮らしを結ぶ運動の冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』をお配りして、昔は大変な苦勞をしてつくられていた塩が、現在でも私たちの暮らしに深く関わっていることをお伝えしています。また、特に夏場の塩田作業は熱中症のおそれもあるので、施設内に熱中症対策のポスターを掲示して注意を呼びかけるとともに、運動の塩飴もお配りしています。

